

令和6年度第2回及び令和7年度第1回委員会に おける主な意見と対応方針について

令和8年3月3日

農林水産省

1 令和6年度第2回多面的機能支払交付金第三者委員会における主な意見及び対応方針

R7.3.6 令和6年度 第2回委員会	御意見(抜粋)	委員名	対応方針(案)
資料4 (3) 次期対策の内容 及び評価について ア 令和7年度予 算概算決定の内 容について	<p>(環境負荷低減のクロスコンプライアンスの)チェックシートを各活動団体がチェックしたときに、生態系に配慮した事業実施に努めるにはどうしたらいいんだろうという御相談を受けることもあると思うので、そうした質問や相談に答えられるようなものを是非御用意いただきたい。</p>	皆川委員	<p>HPに環境負荷低減のクロスコンプライアンスチェックシート解説書を掲載(参考1)</p>
	<p>人材を上手に活用していくためには、市町村のような行政主体がかなり関与していただくことが重要と思っている。 市町村単位ぐらいで人材バンクのようなものを積極的に作るという考えはあるか。</p>	河野委員	<p>都道府県単位で活動組織と外部団体とのマッチング体制の構築を進める。</p>

2 令和7年度第1回多面的機能支払交付金第三者委員会における主な意見及び対応方針

R7.11.28 令和7年度 第1回委員会	御意見(抜粋)	委員名	対応方針(案)
資料1 「多面的機能支払 交付金の施策の 評価について」	<p>質の高い活動の評価においては、効率性、経費削減、経済性といった点にクローズアップするだけではなく、農福連携や外部団体との連携のマッチングといったところも含めて、質の高い取組とは何かということを考えていく必要があるのではないか。</p>	坂田委員	<p>質の高い活動の評価において御意見を踏まえて具体的に検討する。 (【資料4】で説明)</p>
	<p>それぞれの地域で工夫がなければ、その地域は全く動いていかない。それぞれの地域の工夫を共有して、他地域に広げていく。ただ、それはこの地域だからできるということは確かにあるので、それはきちんと分析した上で皆さんと共有するというのが一つのポイントだと思う。</p>	中嶋委員長	
	<p>特色というものも質としてすごく重要。それぞれの地域で本気で考えて、地域の資源が何だろうとか、問題は何だろう、どういう方がいて活動しているのだろうとかいうところをもう少し掘り下げた上で、それが特色として表に出せて評価軸になるということもあり得るかと思う。</p>	吉田委員	